



特集

えほんにふれる

げました。施策の3本柱は「女性が住みたいまちづくり」「地域の魅力を活かした住民主体のまちづくり」「ずっと住みたいまちづくり」。これらのまちづくりには、地域のつながりや、家庭での子育て方法が重要なカギになります。

絵本という道具

家庭での子どもの育ちを支援する道具の一つに絵本があります。子どもたちに絵本の読み聞かせを行うことで、次のような効果が得られます。

- ①コミュニケーションが取れる。
- ②心の成長につながる。感情や情緒を育む。
- ③考え方が広がり、創造力が豊かになる。
- ④言語能力・学習能力が発達する。

子どものためのもの？

子どもだけでなく、絵本は大人にも効果があるのをご存じですか？

大人が絵本を読むことで、子

どもの頃に比べて衰えた想像力が刺激され、頭と心のストレッチになります。

また、高齢者が誰かに読み聞かせを行うことは、認知症の予防にも効果があると言われています。目で文字を読みとって脳に伝え、それを言葉にして声に出すという一連の流れと、相手に分かってもらうために自分が理解しようという気持ちで脳に刺激を与えます。逆に、高齢者が読み聞かせをしてもらう側の場合、懐かしい昔話を聞くことで、子どもの頃を思い出す「回想法」のような効果も期待できます。

写真解説 (右から)

1_今年6月14日開催の「おひざでだっこのおはなし会(わらべうた教室)」。この日のプログラムは『『ダメ』と言わない言葉かけ。4カ月～2歳児を対象に毎月行っている。 2_息子に読み聞かせを行うALEC職員の児玉さん。この日の絵本は「だるまさんの」(かがくいひろし作)。 3_JR藤並駅2階にあるちいさな駅美術館では、毎月原画展を開催。月に一度、実際に作家さんが訪れ、読み聞かせやワークショップを開いている。写真は平成27年6月13日に行われたおはなし会。 4_有田川町にある読み聞かせサークルのうちの一つ「おやじの会」。20代～40代の男性が中心に読み聞かせ活動を行っている。